

神戸市会、議会制度改革で初会合

議員定数4〜9人減提案

維持、増員求める会派も

神戸市会（定数69）は18日、議会制度改革などを議論する検討会の初会合を開いた。複数の会派が、議員定数を4〜9人削減する案を提示し、一部の会派は「市民の多様な意見を反映しにくくなる」などとして、定数増や現状維持を主張した。各会派に持ち帰って、次回会合で改めて意見を確認する。（三島大一郎）

「神戸市議会基本条例」施行から10年の節目に合わせて同日、検討会を設置した。議長と副議長、所属議員5人以上の「交渉会派」6会派の団長、幹事長で構成する。

同市会の定数は、地方自治法が施行された1947年以降、72人が続いたが、他都市の状況などを踏まえ、2006年に3減の69人となった。その後も見直しの議論はあったが、総定

数は変わらず、各選挙区の定数を人口比に伴い増減させるだけにとどめていた。

検討会では、自民党と公明党が「人口規模が近い他の政令市の状況を踏まえ、一定数の削減が必要」などと主張、9人減の定数60人を提案した。日本維新の会は4人減を主張した。オプザーバー参加した共創・国民民主は、60人を目指す段階的削減を唱えた。

一方、共産党は「市民の

多様な意見を反映するため、議会の充実・強化が求められる」として、72人に増やす案を示した。つなぐは定数維持を求め、立憲民主党は削減を含めて検討中とした。

次回会合は2月16日を予定しており、議論が本格化するとみられる。

◇ 神戸市会は18日、市会運営委員会を開き、2022年第1回定例会の日程を2月17日〜6月28日とすることを決定した。

2月議会は3月31日までで、主に22年度当初予算案を審議する。6月議会は同月13〜28日で、正副議長選など。